

2025 年度 法学部 2 部 特別選抜（課題小論文）

【1】 テーマ

日韓関係

【2】 課題

従軍慰安婦や「徴用工」めぐる歴史認識問題から領土や経済の問題まで、日本と韓国の軋轢が絶えない。この「近くて遠い国」にどう向き合えば良いのか、以下に掲げる〈参考文献〉を読み、(1)～(4)の設問に答える形で論述せよ。

- (1)韓国社会およびその日本観の特徴と変化についてどのように書かれているか。
- (2)近年のグローバル化への韓国・中国・日本それぞれの対応に関して、どのような説明がなされているか。
- (3)今後における日本の韓国や中国への対応のあり方について、著者はいかなる主張をしているのか。
- (4)日韓関係の現状と展望について、あなたの考えを述べよ。

【3】 参考文献

道上尚史『韓国の変化 日本の選択—外交官が見た日韓のズレ』（ちくま新書、2022 年）

【4】 留意点

昨年度と同様

1. 【3】 に掲げた参考文献を必ず読み、それを参考に小論文を作成してください。参考文献以外の文献も参考にしてください。参考にした文献は全て小論文の末尾の参考文献欄に明記してください。直接引用する場合は、どの文献の何ページから引用したか、必ず注記してください。
2. 小論文の字数は 2,000 字程度が目安です。小論文は、指定原稿用紙（様式 6）を用いて、原稿用紙に記載されている注意に従って作成してください。小論文には、「小論文題名」と「氏名」を明記してください。「小論文題名」は各自でつけてください。
様式 6 については、
(<https://www.hgu.jp/examination/examination-requirements.html>)よりダウンロードし、「A4 サイズ」・「片面印刷」で出力の上、必ず手書きで作成してください。
3. 合否の評価は、【2】の(1)(2)(3)(4)のそれぞれについて、小論文の内容と口頭試問の結果により総合的に行います。口頭試問では、提出された小論文に関する質問が中心となります。

学部	法学部（2部）
教科・科目名	課題小論文
出題方針	<p>21世紀初頭に日韓ワールドカップ共同開催や「韓流ブーム」で良好な雰囲気にも包まれていた日韓関係も、近年においては日韓両国の国内社会の変化や、両国間の国力差の縮小、中国の台頭といった要因により、歴史認識や領土、経済安全保障などの問題をめぐり軋轢が絶えません。</p> <p>2022年の尹錫悦政権の登場後、韓国政府は国家安全保障上の考慮から日米両国との関係改善を進めてきましたが、日韓関係を阻害する根本的な阻害要因が解消されたわけではありません。「近くて遠い国」韓国との関係を、狭い二国間関係ではなく、より広い国際政治の文脈で考察してもらうのが、出題の基本方針です。</p>
設問の意図	<p>多くの受験生にとって日韓関係について抱くイメージは、「徴用工」や「従軍慰安婦」や竹島をめぐって、刺々しく応酬し合うというものではないでしょうか。人によっては、いろいろと厄介な注文を突き付けてくる（ゴール・ポストを動かす）厄介な隣人で、もはや日本としてこの国との関係改善を目指すこと自体が非生産的なことであるとすら考える向きもあります。しかしその半面、私たち日本人全体が、日本が世界に冠たる経済・技術力を誇るなか、韓国がまだ発展途上の状態で、経済やその他の面で日本に依存するという、1980年代の日韓関係のイメージを引きずっている側面もまだあるのではないのでしょうか。</p> <p>そこで、課題図書著者は、1990年代以降加速化するグローバル化の趨勢の下、日本が韓国や中国にこうした潮流への対応に遅れをとっていると指摘したうえで、上記の諸問題をめぐる対立は対立として、グローバル化に対する中韓両国の果敢な対応の中に学ぶべきものがあるではないか、日本はかつての経済大国の座に胡坐をかいていないかと警告を發しています。そのような著者の問題意識を的確に読み取り、日韓関係を長い時間軸と国際的な文脈から把握できる能力があるか否か、ステレオタイプな日韓関係や韓国の像から距離をとって、今後のあるべき日韓関係のあり方を想像できるか否かを問うのが、設問の意図であります。</p>
総評	<p>受験生によってかなり出来不出来の差がありました。出来の良かった受験生は課題図書の趣旨をおおよそ的確に把握し、日韓関係に関する自分なりの見解を述べる事ができた半面、課題図書をきちんと読んでいるのか疑わしい受験生もいました。</p>

学部	経営学部（1部経営学科）
教科・科目名	小論文（海外帰国生徒）
試験問題	著作権の関係のため公開していません。 ※過去問につきましては、入試課までお問い合わせください。

学部	経営学部（1部経営学科）
教科・科目名	小論文（海外帰国生徒）
出題方針	<p>本試験の出題の基本方針は、日本語による読解力と論理的な文章作成能力を総合的に測定することにあります。与えられたエッセイの内容を正確に理解し、自身の体験や意見を織り交ぜながら、小論文形式で論理的にまとめることが求められます。これは、大学での学びに必要な深い読解力、批判的思考、そして論理的かつ説得力のある文章現力を確認するためです。さらに、エッセイを通じて日本文化に関する洞察を深め、自分の経験を基に異文化的視点を加えた考察ができるかどうかを評価の対象としています。本年度の設問では特に、帰国生徒の異文化理解力と自己表現力を重点的に問う内容としました。</p>
設問の意図	<p>本設問は、帰国生徒の日本語による読解力、論理的な文章作成能力、異文化的視点を評価することを目的としています。与えられたエッセイ「間の感覚」は、日本文化特有の「間」という概念を建築や生活様式、心理的価値観の面から考察しています。このエッセイを基に、受験者が「間」の感覚をどのように理解し、異文化で培った視点からどのように分析・解釈するかを問う設問です。特に、日本文化の特徴を再認識し、大学での学びにそれをどう活かしていくかを見極める狙いがあります。</p> <p>受験者はまず、エッセイを正確に読解し、「間」が日本社会にどのように根付いているかを理解する必要があります。例えば、建築における軒先の構造や、内と外を心理的に区別する日本人の行動様式について述べられており、これらの内容を適切に要約し、自分の体験と関連づけて考察することが求められます。また、日本文化に対する洞察に加え、他国の文化との比較を通じて異文化理解の深さを示すことが期待されています。</p> <p>論理的な文章作成能力も重要な評価基準です。700～800字の小論文では、序論・本論・結論を構成しつつ、具体的な体験やエピソードを基に意見を展開する力が問われます。また、論述の一貫性や説得力、適切な日本語表現を駆使する能力も重視されています。</p> <p>本設問は特に、帰国生徒が持つ豊かな異文化的視点を活かして日本文化を再評価し、多角的に考察する力を試す内容としました。これにより、大学での学びに必要な総合力を測定することを意図しています。</p>

学部	経営学部（1部経営学科）
総評	<p>提出された答案は、設問の文章をまずはよく読み込んで内容理解に努めた跡がうかがえるものでした。全体的な論理の展開はやや不十分な点が少し目につきましたが、海外生活の実体験に基づいた主張はよく伝わり、異文化理解力と表現力の点で高く評価できました。また本試験は日本語の読解力や作文作成力も問うていますので、今後、受験する人は漢字や句読点の誤りがないかも丁寧に確認しながら答案を作成することが求められます。</p>